

中小企業のトレンド(第31回)

何が起きる？IT格差が中小企業の業績格差へ

2018.02.15

うちのような中小企業にIT人材は不要——。そう考える経営者は多い。しかし、急拡大するIT業界は、情け容赦なく中小企業から若い人材を奪っていく。システム担当者不在で、時代の変化に取り残される。そんな事態を防ぐため、何ができるか。

目下、中途採用が最も困難なのがIT関連の人材だ。

リクルートキャリア発表の2017年10月の転職求人倍率は1.88倍。職種別のトップ2がIT関連。1位の「インターネット専門職(ウェブエンジニア含む)」の求人倍率は6.11倍。驚異的な高水準だ。

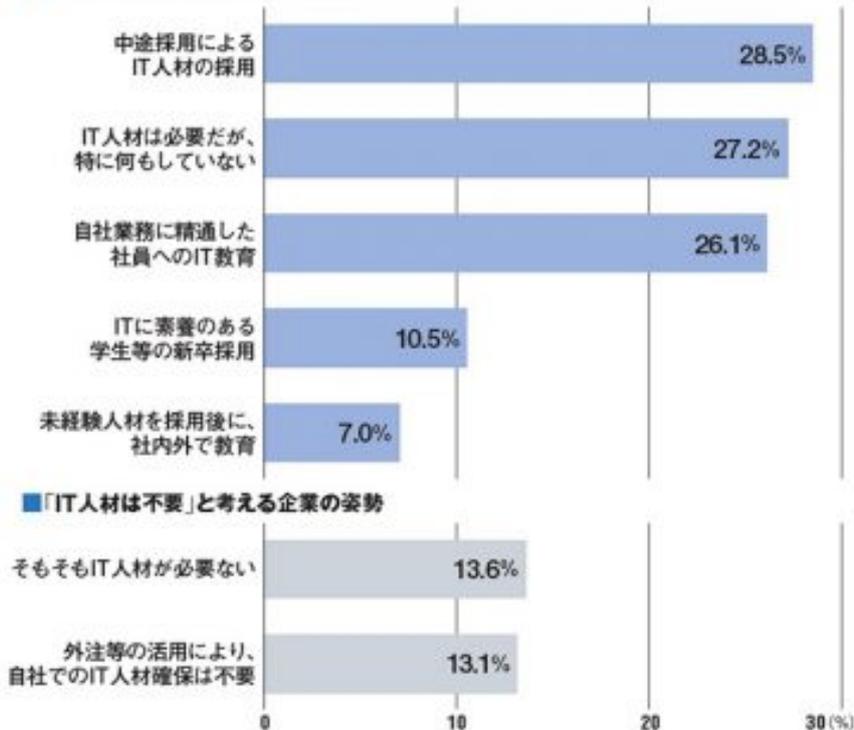
それに「組込・制御ソフトウェア開発エンジニア」の5.06倍が続き、「システムエンジニア(SE)」も3.40倍で4位に入る。

もちろんIT関連の中小企業にとっては切実な問題だが、そのほかの中小企業では「うちには関係ない」と考える経営者が多いだろう。しかし中長期的に見れば、どうだろうか。

商工中金が17年、中小企業を対象に実施したアンケート調査によると、IT人材を「自社には不要」とする企業は26.7%。「IT人材は必要」と考えながら、確保に向けて「特に何もしていない」という企業も27.2%を占める(グラフ参照)。中小企業のITに対する関心の低さがうかがえる。

中小企業にIT人材は必要か

■「IT人材は必要」と考える企業が取る手段



※ 商工中金「中小企業のIT活用に関する調査(2017年7月調査)」から。商工中金が取引先の中小企業4813社を対象にアンケート調査したもの

同じ調査でIT人材に求める業務を尋ねたところ、上位に来たのは「業務プロセス標準化の推進」(59.1%)、「パソコン・サーバー等の保守・管理」(36.9%)、「社内外向けシステムの運用・管理」(34.0%)。売りに直結しない専門的な業務が多く、経営者の興味を引きにくいのだろう。

独学IT担当者に丸投げ… 続きを読む